

巻頭言

第26回体液・代謝管理研究会年次学術集会は、2011年1月22日土曜日に千葉市中央区の「ホテル ポートプラザちば」で開催されました。参加者総数は94名でした。

『千葉で学会』といえば幕張メッセが定番ですが、今回はたまには千葉の中心部まで足を延ばしていただきたいと考え、あえて市内でも中心街に近い「ポートプラザちば」で開催させていただきました。最寄りの駅が京葉線千葉みなと駅であったため、電車で来られた方には東京駅で京葉線地下ホームまでかなりの距離を歩いていただくことになってしまい、ご迷惑をおかけしました。

学術集会の内容としましては、長年救急・集中治療領域で議論されている「膠質液 vs 晶質液」と「重症敗血症/敗血症性ショックの循環管理」を取り上げディスカッションしていただきました。また、教育講演として当大学麻酔科の磯野史朗先生、大阪府三島救命救急センター検査科の竹下仁先生、藤田保健衛生大学麻酔・侵襲制御医学講座の西田修先生に得意分野のお話を伺いました。全体的に、若手医師や研修医を対象とした教育セミナー的なプログラムでしたが、意図したとおりに比較的若いドクターが多数参加しており、ある程度目標を達成できたと思っております。

本稿を書こうと思っていたところ、3月11日に東日本大震災が発生し、これまで経験したことのないような大津波で多数の犠牲者が出ました。現在でも多数の方が避難されています。人知を超えた自然の力による大災害が起こってしまったわけですが、発災後から当院でも、DMATをはじめとして物資輸送や医療救護班の派遣など、現在まで様々な支援を行っています。地震発生で、それ以降の学会や研究会はほとんど中止になるなど、学会活動にも大きな影響が出ました。幸いにも本研究会は1月に開催されたため、なんら影響を受けずに無事終了することができました。地震からの復旧はいまだ遠く、特に福島第一原発の問題は深刻です。未曾有の大災害から一刻も早く立ち直り、被災された方々に平和な日々が訪れることを切に願っております。

第26回体液・代謝管理研究会

会長 織田 成人

(千葉大学大学院医学研究院 救急集中治療医学)